

4. 症 例

乳腺における良性疾患の症例について示す。

乳腺症 mastopathy, mammary dysplasia, fibrocystic disease

乳腺症は乳腺疾患の中で最も多くみられ、病理学的には増殖、萎縮、化生の3つの病変が混在している。本来、女性ホルモンは、卵巣ホルモンであるエストロゲンと黄体ホルモンのプロゲステロンの調節により分泌のバランスが保たれている。このバランスが崩れ、エストロゲンが過剰に分泌されると、乳腺への反応に異常が生じ硬結や腫瘤あるいは軽い疼痛を伴うが、月経周期により消長がみられる。

エコー像では豹紋状 mottled pattern の像を呈したり、限局性の低エコー腫瘤を示すが、えくぼ状サインのディンプリング症状 dimpling sign はみられない。病理学的には退行性病変である嚢胞形成が最も多い。増殖性病変としては腺症 adenosis、乳管内乳頭腫症 intra-ductal papillomatosis などがあり、化生としてはアポクリン化生 apocrine metaplasia がある。

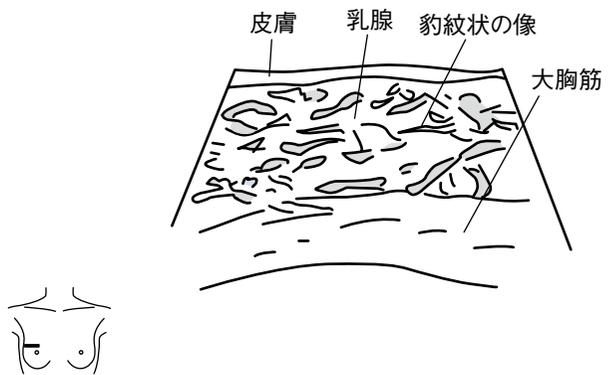
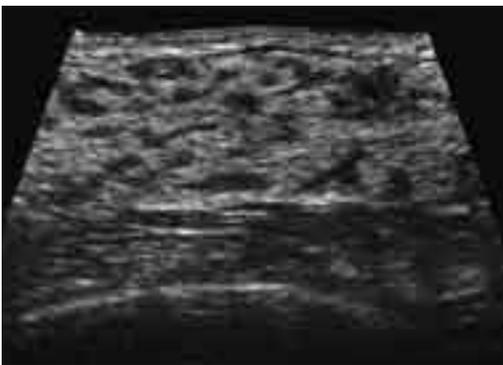
① び漫型乳腺症

び漫型乳腺症の症例について示す。

・乳腺症 mastopathy

48歳，右乳房C領域。

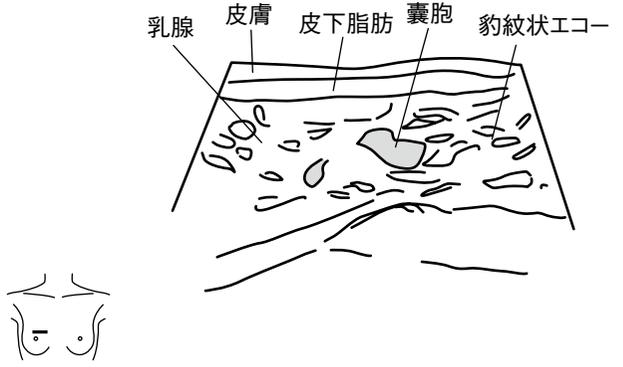
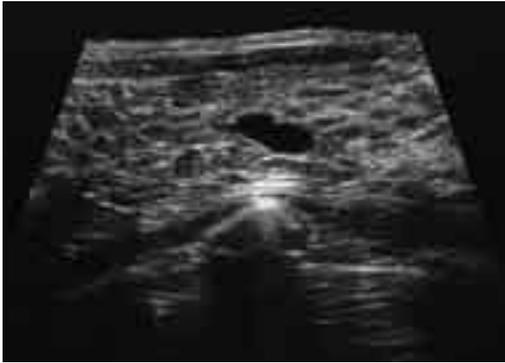
輝度の高い乳腺内には広範囲に豹紋状 mottled pattern の像がみられる。カテゴリ-2。本症は、軽い疼痛を伴い腫瘤や硬結を認めることがある。この例も検査時に圧痛が認められたが、腫瘤像はみられなかった。



・乳腺症 mastopathy

37歳，右乳房A領域.

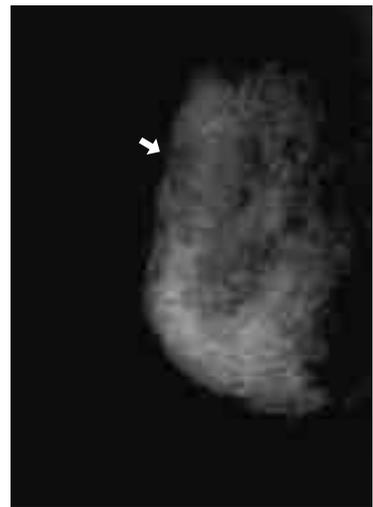
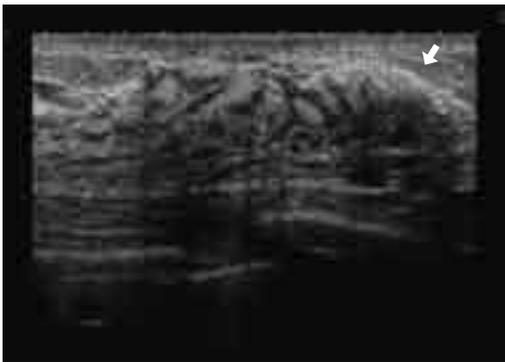
乳腺内には乳腺症に特徴的な豹紋状エコーに加え，形状楕円形の嚢胞が認められる．
 カテゴリー2. 本症は，病理学的には乳腺の退行性病変で嚢胞形成が最も多くみられ，乳腺症の主体を成すことから，fibrocystic diseaseとも呼ばれる．



・乳腺症 mastopathy

55歳，右乳房CD領域.

年齢にしては退縮の少ない乳腺がエコーレベルの高い像としてみられる．乳腺内には豹紋状エコーが描出されているが腫瘍は認められない(図a矢印)．
 カテゴリー2. 図bはマンモグラフィ像を示す(矢印)．
 いわゆる dense breastを呈した白い乳腺像を示している．



図a 乳腺エコー像

図b マンモグラフィ像(カテゴリー1)

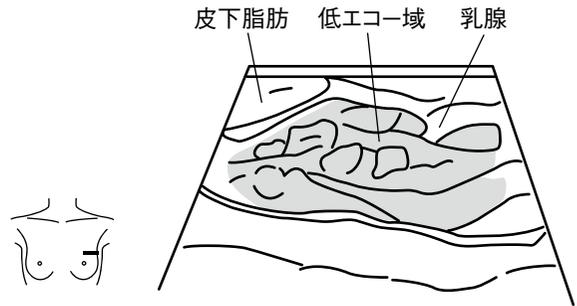
② 腫瘤形成を伴う乳腺症

腫瘤形成を伴う乳腺症の症例について示す。

・乳腺症 mastopathy

59歳，左乳房C領域。

エコーレベルの高い乳腺内には，境界不明瞭な低エコー域がみられる。同部位には石灰化を示唆する点状高エコーは認められない(矢印)。カテゴリー3。DCISが示唆されたが乳腺症であった。



・乳腺症 mastopathy

45歳，右乳房C領域。

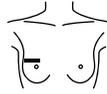
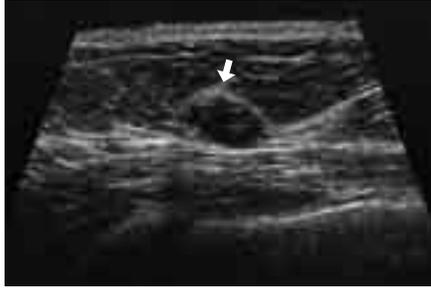
乳腺内には形状楕円形，境界明瞭平滑な低エコー腫瘤がみられる(図a矢印)。カテゴリー3。同例のマンモグラフィ像を図bに示す。乳腺の胸壁側には濃度の高い辺縁不明瞭な腫瘤(矢印)が認められる。乳腺症であった。



図a 乳腺エコー像

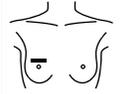
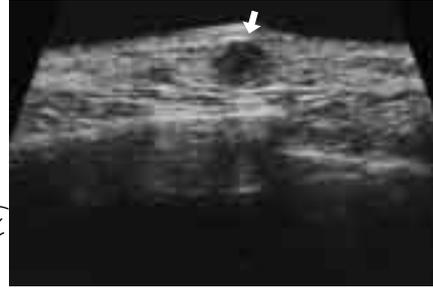
図b マンモグラフィ像(カテゴリー3~4)

・腫瘍形成を伴う乳腺症のいろいろ



46歳，右乳房C領域。

退縮した乳腺の一部には形状楕円形，境界明瞭平滑な低エコー腫瘍がみられる(矢印)．カテゴリー3．マンモトーム生検の結果，腫瘍性病変は認められず，乳腺症であった．



45歳，右乳房AC領域。

皮膚直下の乳腺域内に形状円形，境界不明瞭な低エコー腫瘍がみられる．腫瘍内には隔壁状のエコーが描出されている．カテゴリー3．硬化性腺症であった．本症の場合，浸潤癌との鑑別が問題となる像である．



46歳，右乳房B領域。

右乳腺内には脂肪域より低エコーを示す内部エコー均質な形状円形，境界明瞭平滑な腫瘍がみられる．カテゴリー3．小葉過形成 lobular hyperplasia であった．

NOTE

腺症

乳腺症の組織学的変化は，発生する部位，程度により乳管過形成 ductal hyperplasia，小葉過形成 lobular hyperplasia，腺症 adenosis といったさまざまな名称で呼ばれる．その中で腺症についてみると，乳腺内の領域に乳管の増殖が起こり比較的境界明瞭な腺腫様病変を作るものをいう．閉塞性腺症 blunt duct adenosis は，局所性に密集し増殖した乳管が閉塞乳管のようにみえるものをいう．間質の線維化が進んで上皮成分の萎縮消失がみられるものを硬化性腺症 sclerosing adenosis といい，小葉間および小葉内結合組織の線維症 fibrosis が起こり乳管の通過障害を生じ大小の嚢胞 cyst を形成するものもある．また，線維腺腫様の形態を示す線維腺腫性過形成 fibroadenomatous hyperplasia もみられる．

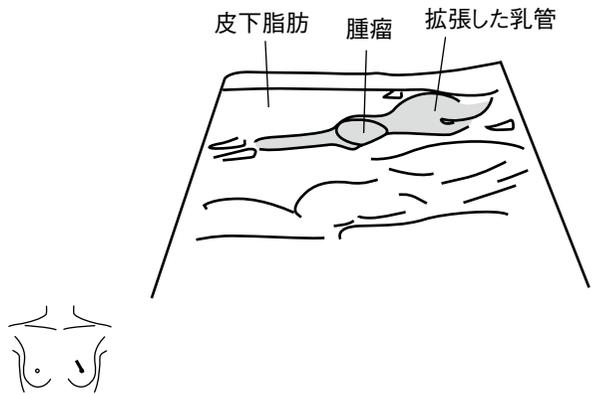
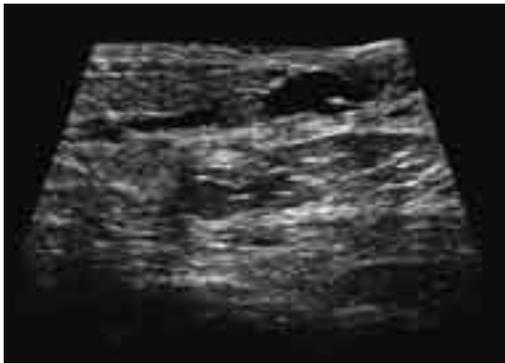
乳管内乳頭腫 intraductal papilloma, 嚢胞内乳頭腫 intracystic papilloma

乳管内乳頭腫は乳管内に乳頭状の増殖を示す良性の上皮性腫瘍で、乳頭近傍に発生することが多い。乳管が嚢胞状に拡張したものが嚢胞内乳頭腫となる。中年女性に多くみられ、乳頭分泌物を訴えることがある。

・乳管内乳頭腫 intraductal papilloma

44歳，左乳房A領域。

限局性に拡張した乳管内には急峻な立ち上がりを示す充実性の内部エコーが認められるが、石灰化を示唆する高輝度エコーはみられない。カテゴリー3。乳管内乳頭腫であった。



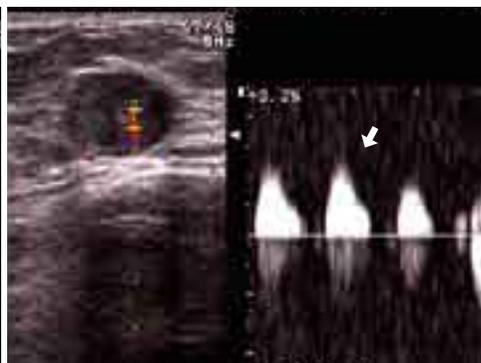
・乳管内乳頭腫 intraductal papilloma

75歳，右乳房D領域。

形状円形，境界明瞭平滑，内部エコー均質な腫瘍がみられる(図a矢印)。腫瘍の血流状態をパルスドプラでみたものを図bに示す。拍動波が認められた(矢印)。カテゴリー3。乳管内乳頭腫であった。



図a 乳腺エコー像



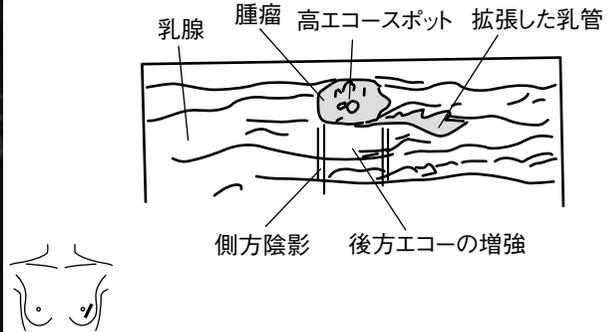
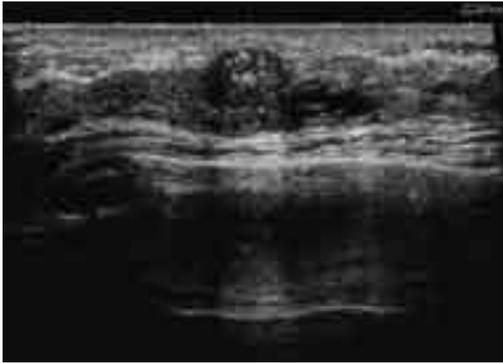
図b パルスドプラ



・乳管内乳頭腫 intraductal papilloma

46歳，左乳房D領域。

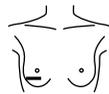
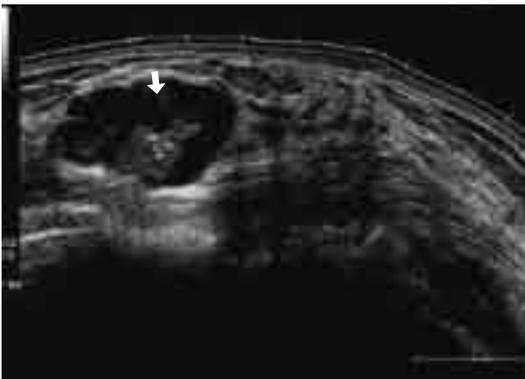
乳腺内には形状円形，大小の高エコースポットを伴った低エコー腫瘤がみられる。腫瘤の下方側面からは拡張した乳管も認められ，腫瘤の後方エコーは増強し外側陰影もみられる。カテゴリー4。乳管内乳頭腫であった。



・乳管内乳頭腫 intraductal papilloma

46歳，右乳房D領域。

形状分葉形，境界明瞭な嚢胞内には不均質な内部エコーがみられる(図a矢印)。カテゴリー3~4。図bは摘出標本を示す。超音波で嚢胞内にみられる不均質な内部構造と嚢胞との関連性を摘出標本から知ることができる(矢印)。乳管内乳頭腫であった。



図a 乳腺エコー像

図b 摘出標本